

【はじめに】

310万大都市横浜、そこには多様な市民の想いがあり、多様な市民の生活がある。

所得水準の向上や自由時間の増大などにより、私たちはモノの豊かさから、心の豊かさを重視するようになった。私たちの生活は、「学ぶ」「遊ぶ」「憩う」といった生きがいを求める生活へとひろがりをもってきた。

こうした精神的充足を求める生活は、趣味、ライフスタイル、価値観などを共有しあう人びとによるさまざまな交流によって、新しいネットワークを形成し始めている。それは従来の地縁、学縁、社縁に加え、市民ひとりひとりの自主的活動から生まれるネットワーク（知縁）といえる。

市民の自主的活動は、日々、営まれる生活のなかでくりひろげられており、生活の活動舞台としての地域が、今、再び見直されようとしている。

地域のなかで、人びとの自主的活動を通してもたらされる人と人との出会い、交流、それは地域をひらき、そして私たちの心をひらいていくことであろう。

わが国は、開国以来、外国文化の輸入によって、約130年という世界にも例のない短期間

で、国際社会において重要な地位を占めるようになった。来るべき21世紀は、国際社会におけるわが国の貢務として、世界から学びえた、また、自らも創出した知識、技術、文化を、世界に向けて発信していかなければならない。

特に横浜は、日本の近代化に大きく貢献してきた都市として、また戦災、接収、人口急増などの幾多の困難な問題に直面し、そして解決してきた都市として、京浜工業地帯を擁し、日本の高度経済成長を支えてきた産業都市として、さらには、豊富な研究開発機能の集積により、これからの日本経済を支える頭脳都市として、日本のなかにおける大きな役割を担っていかなければならない。

横浜は64年に市政100周年、開港130周年を迎え、「横浜博覧会」を開催する。美しいウォーターフロントの空間で、310万人の市民が、そして世界各国の人びとが、さまざまな想いを胸に秘め、出会い、語らい、そして創造する。それは、まさしく「横浜から世界へ」と文化を発信する、「第一の開港」の幕開けとなるであろう。

人びとの心が、地域が、そして都市ヨコハマがひらいていく。そのとき、21世紀は、私たちに豊かな生活を約束してくれることであろう。